



奈良県感染症発生動向調査還元情報（週報）

奈良県感染症情報センター
（奈良県保健環境研究センター内）
Nara IDSC



● 今週の概要

- 今週の感染症情報
- 全数報告対象感染症発生状況（7月） **NEW**
- 奈良県結核患者情報（7月） **NEW**



（調査週） 平成 23 年 第 33 週 8 月 15 日（月）～ 8 月 21 日（日）

奈良県および二次医療圏別発生状況（奈良県上位 5 疾患）（5 週前からの動向）

順位	疾患	定点当たり	奈良県	北 部	中 部	南 部
1	感染性胃腸炎	1.89	→	→	→	↑
1	手足口病	1.89	↓	↓	↓	↓
3	咽頭結膜熱	0.63	→	↓	→～↑	↓
4	ヘルパンギーナ	0.60	↓	↓	↓	→～↓
5	水痘	0.57	→～↓	→～↓	→～↓	→

全県の動きと目立って異なる推移（定点当りの変化程度で実数ではない）を太い矢印で示す。

★郡山、内吉野保健所で手足口病の警報レベルが継続中です。

県北部地区概況 報告数は 111 例で、前週報告数と同数。上位 5 疾患は、①手足口病、②感染性胃腸炎、③水痘、④ヘルパンギーナ、⑤RS ウイルス感染症の順。水痘の報告数（12 例）は、増加。RS ウイルス感染症の報告数（6 例）は、やや増加。感染性胃腸炎の報告数（22 例）は、ほぼ横ばい。ヘルパンギーナの報告数（7 例）も、ほぼ横ばい。手足口病の報告数（41 例）は、減少。奈良市 HC 管内基幹定点からマイコプラズマ肺炎が 2 例（共に 5～9 歳児）と、同管内眼科定点からは急性出血性結膜炎が 1 例、また、郡山 HC 管内基幹定点から無菌性髄膜炎が 5 例（32 週報告分；3 例および 33 週報告分；2 例、0 歳児；3 例と 5～9 歳児；2 例）と、同管内眼科定点からは流行性角結膜炎が 2 例、それぞれ報告された。（村井 記）

県中部地区概況 報告数は 32 週の 141 例から、33 週は 110 例と減少した。上位の 5 疾患（32 週→33 週）は、①感染性胃腸炎（43 例→38 例）、②咽頭結膜熱（14 例→21 例）、③手足口病（53 例→18 例）、④ヘルパンギーナ（5 例→11 例）⑤水痘（6 例→6 例）＝伝染性紅斑（7 例→6 例）の順であった。手足口病は更に減少し 3 位となり、咽頭結膜熱が 2 位となった。眼科定点からは、流行性角結膜炎 2 例の報告が葛城 HC よりあった。インフルエンザの報告はなかった。基幹定点からの報告もなかった。（徳田 記）

県南部地区概況 報告数（第32週→第33週）は23例→31例と増加。報告のあった疾患は①手足口病（6例→7例）、②感染性胃腸炎（6例→6例）、③RSウイルス感染症（2例→3例）、③A群溶連菌咽頭炎（4例→3例）、③伝染性紅斑（0例→3例）、③ヘルパンギーナ（3例→3例）、③流行性角結膜炎【眼科定点】（0例→3例）、⑧水痘（2例→2例）、⑨突発性発疹（0例→1例）であった。（柳生 記）

【全数報告対象感染症発生状況（平成23年7月）】

平成23年7月に奈良県内の保健所に届出のあった全数報告対象感染症は、以下の通りです。

7月報告患者数（平成23年8月23日現在）

類型	疾患名/保健所名	奈良市	郡山	桜井	葛城	内吉野	吉野	7月計
2類	結核	5	5	4	10		1	25
3類	腸管出血性大腸菌感染症	3			1			4
4類	レジオネラ症	2	1	1				4
5類	後天性免疫不全症候群			1				1
5類	風しん	1						1

奈良県結核患者情報

今年度から、奈良県感染症情報センターでは結核患者発生動向情報の提供を始めました。
今回は7月の届出状況をお知らせします。

表. 結核届出数 (平成23年4月~)

市町村	7月	総計	
北和	奈良市	5	25
	大和郡山市	1	9
	天理市	1	5
	生駒市	2	6
	平群町	1	2
	三郷町		4
中和	斑鳩町		4
	大和高田市	4	8
	御所市		2
	香芝市	1	6
	葛城市		2
	上牧町	2	3
	王寺町	2	8
	広陵町	1	6
	河合町		2
	橿原市	3	9
	桜井市	1	5
	三宅町		1
	田原本町		3
	高取町		1
南和	吉野町		2
	大淀町	1	3
	五條市		3
合計	25	119	

(8月26日現在)

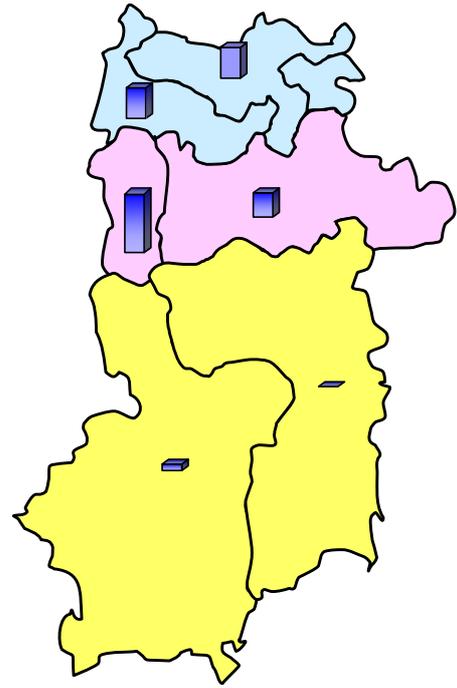


図 1. 保健所別届出数(7月受理分)

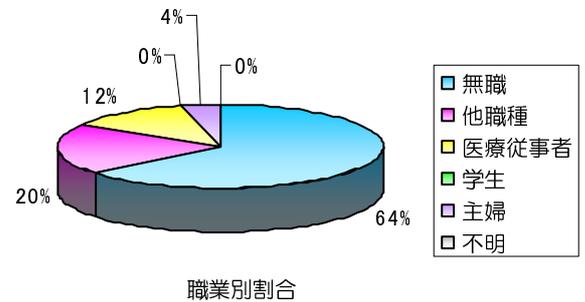
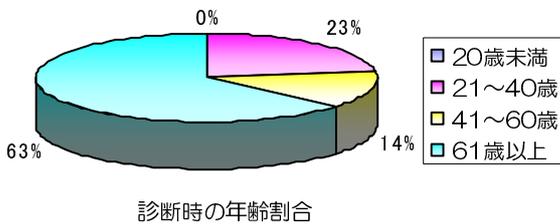


図 2. 患者年齢および職業別割合(7月受理分)

(感染症情報センター 記)